

平成 28 年度 ふるさとものづくり支援事業

市町村名	山形県米沢市	
事業名	米沢織簡単きもの開発事業	
企業等概要	企業等の名称	米沢織物工業組合
	代表者氏名	理事長 近藤哲夫
	所在地	山形県米沢市門東町1-1-87
	連絡先	0238-23-3525
	URL	http://www.yoneori.com

平成 29 年 11 月現在

【事業者概要】

米沢織を製造する機屋（はたや）36社で構成。従業員数は302人（平成29年4月1日現在）。商品の販売店で構成する商業協同組合や染色業など関連事業者で構成する繊維関連協議会とともに「米沢繊維協議会」を組織し、商品開発や人材育成、販路拡大に取り組んでいる。



染料となる紅花

【米沢織】

江戸時代中期の米沢藩主・上杉鷹山公が本格的に開発したとされる絹織物で、紅花や藍などの天然色素で染め上げる草木染が特徴。

現在の米沢市は、天然繊維と化学繊維による服地や呉服の総合的な産地を形成している。

平成19年には地域団体商標として「米沢織」が認可され、ブランドが確立されている。

【事業概要】

◇背景・経緯

米沢織の生産地として、きものと和装文化を広めるため、若い世代が気軽に着用できるきもの開発に着手。「女性用簡単二部式きもの」の試作品をベースに、強度のある生地の実験を重ね、化学繊維を用いることで着やすく、扱いやすい製品を開発することとした。

商品化に向けては、生地の強度確保が大きな課題となり、夏用の薄手の生地を用いる素材の選択に時間を要した。



手始めに夏向けの6色（スカイブルー、カナリア、ピーコック、ネイビー、ルビーレッド、ワイン [若い女性向けにあえて外来語表記]）を商品化。

すぐに着用できるように、帯や足袋、かばんなど10点をセット販売。

ジャカード織による透明感のある光沢柄も特徴。



【成果】

◇地域性・特徴

米沢織で用いられる素材を高い染色技術で染め上げ、特殊ミシンで縫製するなど、織物産地としての伝統技術が活かされている。

シワになりにくい素材を用いることで、自宅での洗濯や手入れがしやすく、一方で、強度を確保するため、力のかかる部位に補強テープを貼ることで、生地裂け対策が講じられている。

さらに、きものが上下に分かれた「二部式」を採用するとともに、セット販売を行う帯についても、結びが不要な作り帯とすることで、着付けにかかる時間が5分程度と大幅に短縮でき、好評を得ている。

◇商品化・販売先

夏向きに6着、秋向きに9着を商品化。組合事務所を兼ねる米沢織産直ショップで販売中。米沢織のファンを増やすため「よねおりすと」のネーミングを冠して情報発信するとともに、きものイベントでPRを行っている。

商品化以降、米沢市を訪れる外国人観光客も含め、レンタルが好調で、平成29年4月から11月までに約100名の利用があった。



<販売方法>

- ①きもの ②帯 ③長襦袢 ④帯揚げ ⑤帯締め
⑥帯板 ⑦足袋 ⑧草履 ⑨着付けDVD ⑩バッグ
以上10点セットで 48,000円(税別)
(レンタル)

着付けを含め	1回	3,000円
	1泊2日	4,000円



【今後の展望】

初めての人でも着やすいという商品特性を活かし、各種イベントで認知度を高めるとともに、団体客が取り込める旅行社や旅館とのタイアップなども検討する。

また、新たに冬向きの商品開発にも取り組むことで、年間を通じた需要喚起を図り、将来的には本来の米沢織に目を向けてもらい、和装文化の拡大につなげる。